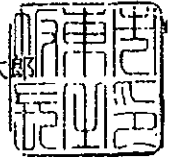


坂都道発第478号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 殿

坂東市長 石塚 仁太郎



今後の道路行政についての意見・提案について

平成20年9月19日付 国道企第37号で依頼のありました標記について、別紙のと
おり提出いたします。

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

・当市へ連絡する鉄道がないため、道路行政を最重要課題として整備促進に取り組んでいるところである。市が単独で整備することが困難な事業については、国・県の補助金や交付金を活用しながら推進しているが、補助金や交付金が多岐にわたりその取り扱い窓口が、国においては内閣府、国土交通省、農林水産省の各担当で、その結果県についても取り扱い担当が様々であるため、申請書や事務が複雑になり、活用しようとする多くの時間や労力を要する。また歩道幅員や舗装材料など構造についても制約を受けるが、その地域に応じた構造や特色をとりいれるのが困難なところがある。これらを踏まえ事務の簡略化と市独自性を取り入れられるような方策を要望する。また中期計画を5年とし、補助金・交付金の整備サイクルを5年としているところがあるが、道路規模や整備費によりこれによりがたい場合もあるので、計画期間の考え方も考慮願いたい。

・広域幹線道路の整備に併せ市が概ね単独で整備する生活道路、冒頭記載したとおり、当市においては、特に公共交通機関が少なく移動の手段は自動車に頼らざるを得ない状況であるため、限られた予算の中での生活道路の整備を進めていくうえで安定した道路事業費の確保が望まれる。

○現状

当市の利用交通の状況は、鉄道交通については、当市へ連結する鉄道がないため、つくばエクスプレス各駅をはじめとする他市町の駅を利用している。バス交通については、当市から東京駅に向かう高速バスや周辺市町へ向かう路線バスが利用されている。しかしながら、茨城県内における当市の自家用乗用車保有台数は第４位という統計値から見られるように、市内のバス交通などが充足されているとは言えず、公共交通の脆弱な地域となっている。

一方、道路交通について近年では、主要道路（国道、県道等）の著しい交通量の増大と通行車輛の大型化により、その規格は、十分なものとは言えず、交通安全上も支障を来している。このような中、国道３５４号バイパス、主要地方道結城坂東線バイパスなどの広域交通体系の整備が国・県により進められている。さらに、横浜、つくば、成田など東京周辺の拠点都市を環状に結ぶ首都圏中央連絡自動車道の整備が、平成２４年度の開通を目標に進められている。

本市の１級市道は５５．９kmあり、現在４４．１kmの路盤改良を含めた整備が完了しています。２級市道は４５．２kmあり、２３．４kmの整備が完了しています。また、生活道路については、道路舗装率が４９％であり、県平均を下回っています。

このような中、市街化区域内の生活道路の幅員は、４メートルに満たない狭い道路であるため、日常の生活や災害時の救

○課題

つくばエクスプレスなどの鉄道交通や首都圏中央連絡自動車道などの道路交通の利便性の向上を図るため、関連するすべてのアクセス環境を早急に整備する必要がある。具体的には次のとおりである。また、市街化区域内の地価は高く、また、家屋等の補償物件も多いため、道路整備に当たって用地購入費、物件移転補償料の財源の確保が緊急の課題になっている。

- ・ 当市へ連結する鉄道の誘致
- ・ 市内及びつくばエクスプレス周辺駅へのバス路線の充実
- ・ 北関東を横断し、道路交通と物流の要となっている国道３５４号バイパスの早期整備
- ・ 首都圏中央連絡自動車道ＩＣへの直接アクセスとなる主要地方道結城坂東線バイパスの早期全線整備
- ・ 広域幹線道路網を支え、市内外を結ぶ準幹線道路である中里坂東線などの一般県道の早期整備
- ・ 首都圏中央連絡自動車道ＩＣへの接続、国道３５４号バイパス、主要地方道結城坂東線バイパス、土浦境線、中里坂東線やその他の県道との一体的・有機的な１、２級市道整備
- ・ 国道・県道のバイパス化に伴い、分断される生活道路及び水路の機能回復を図る全体的整備
- ・ 市民から要望されている多くの生活道路改良要望の中で事業効果を考慮した道路整備を図るための道路事業費の確保

急活動に支障をきたしている状況下にある。 市民に密着した、生活道路の整備も多く要望されているが、最近の緊縮財政のため、計画通り進んでいないのが現状である。	
---	--

②-2 地域の目指すべき将来像

茨城県坂東市

「広域交通体系の整備効果や地域資源を生かしたまちづくり」

- ・ 首都 50km 圏・茨城県の南西部にあって、広域交通体系の整備や、利根川に育まれてきた豊かな自然、そこに暮らしを営む市民の技術・知恵を生かして、都市の自立・発展を支える産業の活力や都市機能の魅力に満ちたまちをつくります。
- ・ 本市は、首都圏中央連絡自動車道の整備により、首都圏における新環状連携軸「首都圏環状地域連携軸」に位置し、つくば市など拠点地域や首都から放射状に伸びる常磐、東北、関越などの高速道路を通じて全国と結ばれると共に、成田を通じて世界と繋がるなど、新たな交流時代を迎えます。これらの整備効果やつくばエクスプレスなどの鉄道交通の利便性を地域の発展に積極的かつ効果的に生かし、経済的・社会的に自立した活力ある都市の形成を目指します。
- ・ 首都圏に安全な生鮮野菜を供給する全国有数の農産物生産地であり、菅生沼などの豊かな自然環境、逆井城跡などの歴史的な資源などを保有しています。これらの地域資源を生かしつつ、交流・連携軸の拡大に対応した産業振興や交流施策などを展開し、賑わいづくりや地域の活性化に努めます。
- ・ 首都圏中央連絡自動車道 I C へのアクセス道路や国道 3 5 4 号バイパスなど地域発展の基礎となる広域幹線道路の整備促進や生活道路の整備など、市民生活の日常の営みを支える道路の充実を図り、安全で快適な道路づくりを目指します。

③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

茨城県坂東市

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・都市交通の快適性、利便性の向上 ・首都圏環状道路の整備促進	本市は、首都圏中央連絡自動車道や国道３５４号の整備により新たな交流時代を迎えることから、これらを生かした地域の発展と活力の創出を図るとともに、公共交通ネットワークづくりを進めることを坂東市建設計画の基本方針に据えている。 具体的には、圏央道の「目標宣言プロジェクト」により、早期かつ確実に完成させること。合併市町村幹線道路緊急整備支援事業として茨城県と協働して進めている国道３５４号バイパス及び主要地方道結城坂東線バイパスの早期全線整備を促進している。	・国道３５４号バイパス 当路線は、首都圏中央連絡自動車道と並び、人、もの、情報の交流を促進し、物流、観光など産業振興に寄与し、地域の活性化、雇用の創出につながる。また、つくばエクスプレスとの連絡向上が図られ、市民生活の利便性が飛躍的に向上する。 ・主要地方道結城坂東線バイパス 当路線は国道３５４号及び同バイパスに直接連結し、さらには首都圏中央連絡自動車道ＩＣへのアクセス道路として重要な役割を担っている。国道３５４号バイパスと併せて早期に全線整備することにより、当地域の飛躍的な発展が見込まれる。 岩井地区の慢性的な交通渋滞の緩和と、首都圏における交通混雑の緩和や都心に集中する業務機能の分散などによる周辺地域の再生、物流改善等による生産コストの縮減やCO₂の大幅な削減も期待できる。	

・地域活力の向上	主要地方道つくば野田線の改良整備	本線は茨城県と千葉県を結ぶ重要な幹線道路であり、交通量も年々増加し、県境の芽吹大橋を中心に付近の交通渋滞が慢性化しているため、周辺の4市により組織化した当路線の整備促進期成同盟会により、毎年整備促進の要望活動を行っている。 当要望である芽吹大橋の架け替えを含めた4車線化が完成することによって、千葉県からの玄関として、更には産業活動においても大きな事業効果が期待される。	
-----------------	-------------------------	---	--